

さくら散る

草野心平

はながちる。

はながちる。

ちるちるおちるまひおちるおちるまひおちる

光と影がいりまじり。

雪よりも。

死よりもしづかにまひおちる。

まひおちるおちるまひおちる。

光と夢といりまじり。

ガスライト色のちらちら影が。

生れては消え。

はながちる。

はながちる。

東洋の時間のなかで。

夢をおこし。

夢をちらし。

はながちる。

はながちる。

はながちるちる。

ちるちるおちるまひおちるおちるまひおちる。

『凹凸』昭和四十九年刊より

## 青イ花

草野心平

トテモキレイナ花。  
イツパイデス。  
イイニホヒ。イツパイ。  
オモイクラキ。  
オ母サン。  
ボク。  
カヘリマセン。  
泥ノ水口ノ。  
アスコノオモダカノネモトカラ。  
ボク。トンダラ。  
ヘビノ眼ヒカッタ。  
ボクソレカラ。  
忘レチャッタ。  
オ母サン。  
サヨナラ。  
大キナ青イ花モエテマス。

『定本蛙』昭和二十三年刊より  
『草野心平詩集』思潮社現代詩文庫

## 雨の田覚寺の椿

草野心平

青鬼の。

エナメルぬりの舌のような。

葉っぱのむらがりからよだれがたれる。

まるまって鈍くおちる。

靄がわき。

うす暗く。

トラホーム色のランプがともる。

ランプが。

十五か十六ともっている。

音がなく却って。

古代がひしめいて私をとりまく。

うす暗く。

煙雨がたくさんの舌にたまってよだれをたらす。

ガア。

と湘南電車がとおっていった。

いきなり二十世紀がめざめ。

ぼたぼたぼたの血団子が。

椿の根元に。

そっちこつちにあるのに気づいた。

『マンモスの牙』（昭和四十一年刊）より  
（『草野心平詩集』思潮社現代詩文庫）